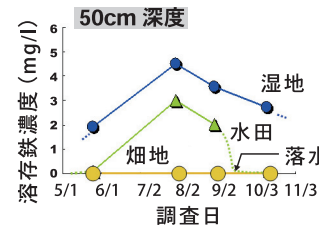
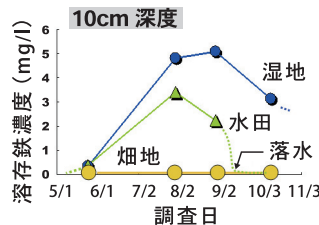


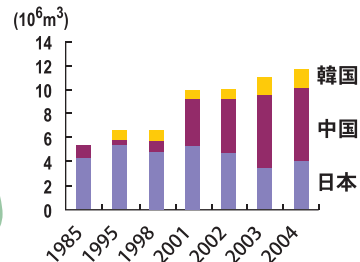
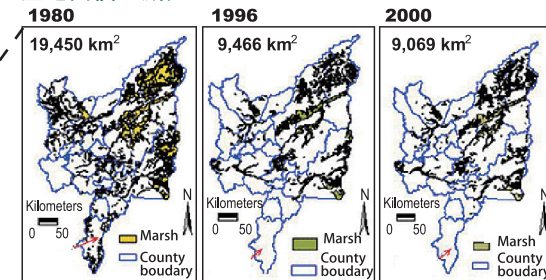
「巨大」魚付林」仮説

アムール川流域の森林や湿地、あるいは農地といった地表面の状態が、遠く離れたオホーツク海や親潮域の植物プランクトンの生産量、ひいては海洋生態系の持続可能性に関わっている可能性が出てきました。この問題の鍵は、アムール川流域で生成され、河川と海流によって遠くオホーツク海や親潮域に運ばれる「溶存鉄」にあります。私たちはアムール川流域で繰り広げられる人間の営みがこの大規模な生態学的つながりにどの程度影響を与えるのかを明らかにし、陸と海との望ましい関係を考えていきたいと思っています。

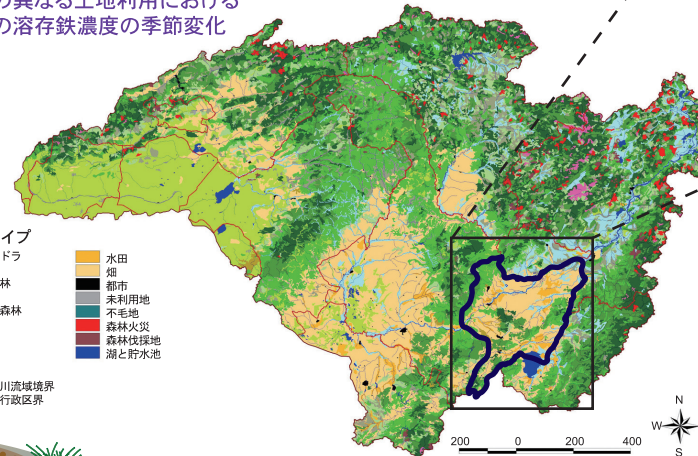


中国三江平原の異なる土地利用における
土壌間隙水中の溶存鉄濃度の季節変化

1980年から2000年にかけての三江平原における
湿地面積の減少



ロシア極東からの丸太の原木輸入量の
経年変化 (対 中国、日本、韓国)



大気による鉄
の輸送

カムチャッカの
氷河

腐植酸

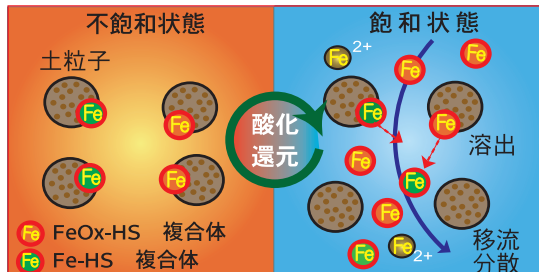
一次生産

$Fe^{2+} \rightarrow Fe^{3+}$

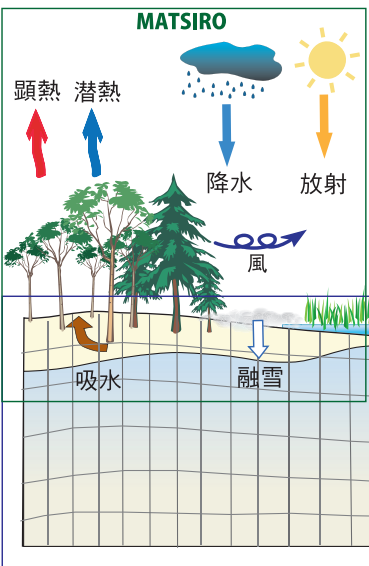
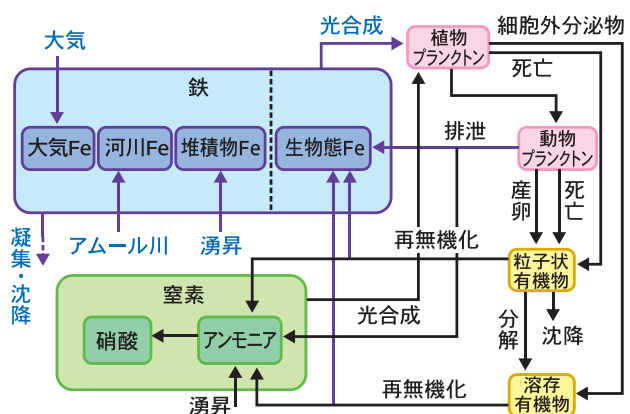
オホーツク海
北部北太平洋親潮域

オホーツク海の海洋生態系モデルの概要

鉄輸送モデル



アムール川



GETFLOWS